

小 総 企 号

平成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長 様

北海道小平町長 横 濱



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号を以って依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり提出します。

(総務課企画室)

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道小平町

○ 道路網の重要性は、公共交通機関の充実している都市部と、限定されている地方では、必然的に温度差が生じていることは言うまでもありません。したがって、現在、道路整備を進める、あるいは見直しをする段階で用いられている評価方法自体を見直すことが重要でありま

す。

真に必要とされる道路には、地域によって、あるいは季節によって異なり、国民目線での整備基準を策定することが必要です。

地域実情に合致した評価が必要で、例えば、鉄道や複数のバス路線がある地域と単線のバス路線しかない地域とでは評価基準は大きく異なるべきである。また、一次産業が基幹産業である地域は、物流路線として道路が果たす役割は、他の地域と異なるべき。

○ 新たな道路整備は、現在進められている高規格幹線道路など必要な整備は進めるとともに、老朽化してきている道路・橋梁の維持改修が行政においては大きな財政負担を伴う状況下にある。地域住民にとっても安全安心な道路環境の維持は必須であるが、財政状況の硬直化が進行している中で、その財政支援等維持改修支援等について早急な制度化が必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道小平町

○現状 〈国・道〉 日本海に沿って南北に縦貫する国道 232 号線が唯一の国道であり、越波による交通障害や、近年頻発する自然災害は大きな脅威であり、有事を想定したとき、安全安心な道路として当町のみならず通過車両にも影響を及ぼす状況にある。 維持管理経費の削減が道路景観や冬期間における安全安心な道路確保に影響を及ぼしている。 〈町道〉 道路（橋梁を含む）の維持管理が、これからの道路施策の重点となってきた。	○課題 〈国・道〉 越波対策として、主に消波ブロックの投入により対応されているが、シーニックバイウエイ認定ルートでもあり、道路景観の視点からは課題がある。また、何時来るか想定できない災害に対応した道路網整備は、財政構造が硬直化している状況下での予算化が課題となっている。 予算確保や連携による経費削減などについて検討する時代になっている。 〈町道〉 橋梁の長寿命化施策について制度的にも厳しい状況下にある。
---	---

今後の道路行政についての意見・提案

②—2 地域の目指すべき将来像

北海道小平町

小平町新総合計画（平成 20 年度から 29 年度）では「まちの将来の姿」の中で、地域特性をいかした産業のまち・安心して暮らせる福祉のまち・安全で快適なやなぎのまちづくりを目標としている中で、地域住民が快適で安心して定住できるまちづくりを着実に進めていくことが必要であり、そのための道路づくりに求められている施策体系は、防災・医療・物流対策などに広範多岐にわたっており、国や道さらには地域間連携により安全安心を重視した施策展開を図る必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

北海道小平町

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
災害に強い道づくり	広域的迂回道路網の確保 道路景観に配慮した越波対策	自然災害や緊急医療対応等少子高齢化と過疎化が進む中で、地域住民が安心して住み続けることにより、地域の衰退化傾向の緩和効果が見込める。	
道路景観の向上による観光ルートの確立	シーニックバイウェイルート運営の強化	地域特性を活かしたルート整備と、これに付加価値を付けることにより、まず、地域に住む人達が自ら魅力に気付き楽しむことにより、訪れる人達への波及効果を生み、地域力の向上と地域の活性化につながる。	
移住・定住促進と地域活性化	高規格幹線道路の早期完成	主に団塊の世代をターゲットとした移住定住施策の推進や物流システムの充実が図られ地域活性化への誘因が期待できる。	